

運転保安確立・88冬季物販斗争勝利へ 職場からの決起をかちとろう！

日刊 勤労千葉

1988.11.29
No. 2933

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

12月1日斗争に勝利しよう

才3回支部代表報告（その2）

「日刊勤労千葉」(No.2931)で、第三回支部代表者会議で「十二・一ダイ改」阻止斗争の経過と集約内容および総括の視点について確認されたことを報告した。今回は、当面する取り組みについて確認された内容を報告する。

第十九回定期委員会

（十二月十日、労働者福祉センター）
「十二・一七全国労働者集会」
（日本橋公会堂）
の圧倒的成功をかちとろう！

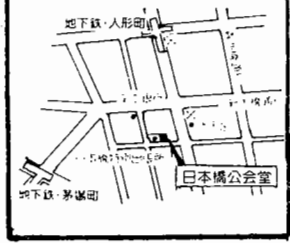
第三回支部代は、第十五回定期大会以降、「十二・一ダイ改」阻止、「一〇・二三三里塚」「十一・三団結運動会」を中心に関ってきた秋季斗争に続いて、第十九回定期委員会（十二月十日）、「右翼労戦統一に反対する十二・一七全国労働者集会」を中心とする十二月闘争を全力で闘い抜き、「一九八九年団結旗開き」（一月十四日）を起点に、「六四・三ダイ改」阻止闘争、八九春闘へ続く闘いへ、全力で決起していくことを確認した。そして、そのために、当面、運転保安問題を中心に、「十二・一ダイ改」移行へ向けた職場での取り組みに全力をあげ、各支部定期大会の開催、営業協議会および清算事業団の支部化を軸とした組織強化と、八八冬季物販闘争の勝利へ向けて奮闘していくことを確認した。

まやかしの安全施策 引き続きスト体制を強化しよう！

われわれは、当面、この第三回支部代方針にふまえて、職場・生産点で次のように取り組みなければならぬ。
まず、運転保安確立へ向けた職場・生産点からの取り組みの強化である。
JR東日本は、上越線貨物列車脱線・転覆・衝突事故が、われわれ勤労千葉がストライキにかけ

右翼労戦統一に反対する 12・17労働者集会

とき 12月17日(土)午後三時
ところ 日本橋公会堂
よびかけ人 佐藤 芳夫 分全委員長
中野 洋 分全委員長



て主張して来たように、この間の「国鉄分割・民営化」の当然の結果として、あまりにも衝撃的であったが故に、「チャレンジセイフティ」運動や本社の「監査」、「職場と本社の直接対話」などのマヤカシをもつて、あたかも力を入れていたようなポーズをとりつつ、一方では「昇給試験」「組合バッチなどに対する不当処分強行」、「ボーナスカット」などで組合差別を強め、「ものも言えない暗い職場」化することを通して、運転保安に対する切実な要求すらも無視しようとしている。

われわれは、「十二・一ダイ改」移行や日常的業務の中で、運転保安に対するJR当局の無謀な業務命令に絶対従わず、安全を守る体制を強化しなければならない。
われわれは、「列車指令」のムチャクチャな指示に従った結果であるとうと、一旦、事故に遭遇すれば、刑事責任を問われる国鉄労働者の現実を厳しく見据えなければならない。
三河島事故を見よ！
船橋事故を見よ！

事故責任を問われた労働者を、資本家や御用組合が本気で守ったことなど一回もないのだ。
われわれには、昇給試験やボーナスカットの組合差別等、あらゆる攻撃に屈せず、これを粉砕して団結を強化する以外に、労働者として生きる道はないのだ。
引き続き、スト体制を強化して闘おう。

第二に、われわれは、八八冬季物販闘争の勝利へ、全力で取り組みなければならない。
物販闘争の意義は、今さら言うまでもないことである。

冬季物販は、極めて短い期間内での奮闘が要求される。十二月が勝負である。
全国、千葉県内、組織内のそれぞれの目標達成へ、十一月〜十二月を全力で闘い抜こう。
そして、この職場・生産点からの闘いの熱気をもって、第十九回定期委員会、「十二・一七全国労働者集会」の圧倒的成功をかちとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！